事業団やまぐち

Vol.112
2026.3

その人らしさを大切に
～みんなの笑顔のために～

大きな袋を担いだサンタクロースと楽しいひと時

P1～4
施設からのたより
P4
令和７年度新任正職員紹介
P5
令和７年度表彰
P6
令和７年度先進施設研修報告
P7
令和７年度職員互助会親睦交流事業
採用から３年目を対象とした座談会
P8
リレーエッセイ

灘海園　介護員　水間　順太

二〇二五年を締めくくる最後のイベントとしてさくら三・四丁目が合同でクリスマス会を開催しました。

真っ赤な衣装に身を包んだサンタ役の職員が登場すると、入居者様の表情が一変しました。大きな袋を担いだサンタクロースが「メリークリスマス」と目の前まで来て陽気に踊り出すと、思わず身を乗り出して子供のようなキラキラした瞳で拍手を送って下さいました。

多くの入居者の方々が明るい笑顔を見せてくれたのが印象的でした。そしてその温かな笑顔に触れ私達職員の心も優しく満たされました。

特別な演出を通じて、入居者様の心の奥にある喜びを引き出し、同じ瞬間を分かち合える。この仕事を選んで本当に良かったと、心から実感した一日となりました。

施設からのたより

キャラバンメイトを通して

伊保庄園　介護サービス課長　叶山　尚美

地域貢献活動の取組みの一環で、柳井市が主催する認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして、当園から三名の職員が参加しています。キャラバンメイトは、市職員、介護事業所等の看護師・介護支援専門員・介護職員等が登録しています。

養成講座は、希望する一般市民や小学校、そして企業に対してキャラバンメイトが中心となって開催されます。内容は、認知症について理解を深める講座・朗読劇・体操・クイズ等です。今年度は、九回開催されました。

朗読劇では、認知症の方への接し方を学んでいただくために、メイトが役になりきり、スライドに合わせてセリフを言っていきます。私も、初めて参加した頃は、「劇なんて…〇〇年ぶり？」セリフも棒読みでした。しかし、ベテランのメイトさんの感情を込めた語りに影響され、私も、少しは上手くなったように感じています。

今後も、この活動を通して地域との関わりを継続していければと思います。

アツアツおでんで心も身体もほっこり★

オアシスはぎ園　栄養士　向井　直子

沁みるような寒さがこたえる一月下旬。毎月恒例のお楽しみ会が開催されました。今月は「おでん」です！利用者さんが順々に来店され、目をきらきらと輝かせながら、好みの具材と飲み物を選ばれました。食べ終わった後、じっとおでん鍋の方を見つめられている利用者さんがおられ、声をかけると「おかわり出来る？」とのこと。「内緒で少しなら！」と言うと「ほんと？♡♡♡」と、とても嬉しそうで、こちらもほっこり笑顔になりました！

ぐつぐつと煮えるおでんの香りを感じながら、また特別な飲み物（ビール・日本酒・焼酎ｅｔｃ）も飲みながら…目でも舌でも鼻でも楽しんで頂けたのではないかと思います。次回はラーメン屋を開店しますよ♪

心に春風、たちばな大節分会

たちばな園　生活支援員　七寶　宏

「鬼は外！福は内！」たちばな園の中庭に年男、年女さんたちの威勢のいい掛け声が響きます。

節分を迎えたこの日、お世話になっている地域の皆さんをお招きしての「大節分会」が行われました。

日頃、地域のサロン活動でお世話になっている皆さんと一緒に、ギターの伴奏でリクエスト曲を歌ったり、園での生活や楽しみにしている行事のことをお話しました。甘酒やお菓子をいただきながら、終始和やかな雰囲気の中、交流を深めることが出来ました。

「リクエストした『いつでも夢を』を一緒に歌えて楽しかったよ！またやりたいね。」と、利用者さんの嬉しい声も聞かれました。

短いひと時でしたが、皆さんの心に暖かな春の風と穏やかな福の神様が訪れたような、素敵な素敵な時間でした。

施設からのたより

秋空に咲いた笑顔の花火

華南園　生活支援員　生田　楓華

夏にテレビで花火中継を見ていた際、利用者さんから「実際の花火を見てみたいね。」と言う声があり、十月二十五日に防府市潮彩市場で開催される「ふるさと想い出花火」を希望者で鑑賞することになりました。

高く打ちあがる花火は、華南園から見えることが分かり、駐車場から鑑賞する予定としていたのですが、当日は朝から雨が降り、開催されるかどうか心配な空模様になってしまいました。しかし、利用者さんの願いが届いたかのように、次第に雨は上がり天気は回復していきました。

予定通り花火が打ち上がると、夜空高く広がる光に、皆さん自然と笑顔になり、集中して見入っておられました。花火全体は見えませんでしたが、大きく咲く花火ははっきりと見ることができ、静かに感動を味わう穏やかな時間となりました。

鑑賞後には、「すごく綺麗だった。」「見れてよかった。」「また来年も見たいね。」など、嬉しい声がたくさん聞かれました。季節の行事を通して、心に残る思い出がまた一つ増えたようです。

職員も利用者さんと一緒に、同じ空を見上げながら、楽しいひとときを共有することができました。皆さんの笑顔を見ることができ、このような機会を作ることができて良かったと感じています。今後も心に残る行事を大切にしていきたいと思います。

皆で取り組んだ絵本作り

華の浦　生活支援員　松尾　るいか

一昨年のある日、利用者さんから「孫の七五三に合わせて絵本をプレゼントしたい。」と話がありました。初めての作成で不安もありましたが、希望に応えたいと思い、職員と利用者さんで協力して作成しました。

役割分担を決め、物語と絵は順調に作成していました。一方で、色塗りについては利用者さんから「自分が塗って変にならないか。」と不安の声が聞かれました。手や指が動きづらいことから、細かな作業への苦手意識もあったように思います。

その気持ちに寄り添うように、利用者さんの不安を傾聴し、都度やり方を検討しながら進める中で、次第に前向きな言動がみられ始めました。

完成させた頃には達成感に満ちた様子でした。そうして出来た絵本を面会の際に渡されたようです。

その絵本の感想を先日来園されたお孫さんと息子さんに伺うことができました。「何回も読んでいます。猫ちゃんの絵がお気に入りみたいです。」と教えていただきました。それを聞いて、取り組んでみてよかったなと思いました。

専門的支援、はじめました

このみ園　心理士　辻田　詩歩

今年度、専門職の視点から個別支援に関わる取り組みを開始しました。一人あたり三十分の支援を月に一～二回程度実施し、基礎感覚、情緒の安定、意思表出支援、社会スキル等、一人ひとりに合わせた支援を実施しています。

PECS、自分の気持ちを知るワーク、挨拶やマナー、バルンポリンなどで中心軸を育てる活動、感覚あそび等を、園内の色々な場所で、デイ以外の職員の協力もお願いしながら取り組んでいます。感覚刺激を沢山求めており、全力で遊びきることが目標のAさん。自分から遊びたいことを伝えられず、硬い表情で職員の表情を観察しながら「活動に付き合ってくれている」状態でした。キックボード、キャッチボール、公園活動など、体を動かす活動を続けるうちに、自然な表情や遊びが増え、「いってきます」「ただいま」など会話も一方通行ではなく、相手を意識した言葉や、「楽しかった、またね」と笑顔を見せてくれることが増えました。活動以外の時間や、ご自宅でも穏やかに過ごされることが増えています。

じっくり関わる中でこそ見えてきたことを、チームで共有しながら、子ども達が「できた！」と感じて楽しく取り組めるような支援をしていきたいと思います。

施設からのたより

お茶指導

山口県みほり学園　セラピスト　松本　秀佳

二ヶ月に一回、中学生女子を対象に、外部の講師からお茶の指導を受けています。季節のお花を活けたり、掛け軸をかけたりと、当日は、普段の大部屋が茶室へと早変わりします。正座に慣れなかったり、作法に苦戦することもありますが、丁寧に教えていただけることもあって、「お茶はいつあるんですか？」「次のお茶菓子は何ですかね？」などと聞かれることも多く、子ども達も楽しみにしているようです。

それぞれがお点前を披露する場も設けられ、緊張しながらも頑張って取り組んでいます。失敗を気にせず笑い合うようになったり、次回は誰が披露するか尋ねられた際には自ら手を上げてみたりと、このお茶指導の中でも様々な成長面が見られ、「できた」という自信を育むことへ繋がっていると感じます。引き続き、子ども達と一緒に楽しく学びながら、成長を見守っていければと思います。

お仕事ゲームにチャレンジだ！

山口県児童センター　児童厚生員　村上　綾霞

十一月二十三日に「子ども文化の祭典」を実施しました。今年のテーマは『お仕事ゲーム』。消防士の消火ボーリング、警察の謎解き犯人捜しなど、児童センターが職業にちなんだ遊びを体験できる場所に大変身。看護師のコーナーでは、包帯巻きゲームにチャレンジ！難しいと言いつつも、患者役の保護者の腕が真っ白になるくらい、上手にグルグル巻きにしました。最後は各コーナーで集めたコインを持って駄菓子屋で好きなお菓子と交換！こどもたちは悩みに悩んで選んでいました。

帰り際に「今日は楽しかったね。」と親子で話されている様子に、ほっこりしました。他にも、よさこい、ＩＬＫ　ＪＡＰＡＮ、カレーライスのキッチンカー、ＳＬ上映会(映像)、工作など様々な催しがあり賑やかな一日となりました。

令和7年度　新任正職員紹介

①趣味　②特技　③好きな食べ物　④好きな場所

灘海園　看護師

明本　里美

①旅行
②フラダンス
③お肉（やっぱり焼肉でしょうか笑）
④ハワイ（趣味特技の影響）

灘海園　主事

太才　未来

①日帰り旅行
②夜更かし
③海鮮
④車の中

令和７年度表彰

おめでとうございます！

全国児童心理治療施設協議会　永年勤続表彰
山口県みほり学園　保育士　斉藤麻由美

全国社会福祉協議会　永年勤続功労
このみ園　主査　吉田　和敬

全国社会福祉事業団協議会　永年勤続表彰
灘海園　主任　景浦　佑
灘海園　主任　野村　泰彦
灘海園　介護員　星出由紀子
オアシスはぎ園　主任　井上　和亮
オアシスはぎ園　主任　堀上　祐子
華南園　主任　福島　有貴
華の浦　支援サービス課長　笹木　政志
このみ園　児童指導員　東　由紀枝
山口県みほり学園　主任　因幡　禎
事務局　主事　光井貴和子

全国老人福祉施設協議会　感謝状
灘海園　主任　谷本　直美
灘海園　介護員　高橋　千春

中・四国身体障害者施設協議会　会長表彰
華南園　主任　今元　佑美
華南園　主任　和崎　伸二
華南園　生活支援員　小林　れい

中国地区老人福祉施設協議会　会長表彰
灘海園　機能訓練指導員　阿品　恵美

山口県　健康福祉功労者知事表彰
伊保庄園　主任　藤川　善幸

山口県　いきいき福祉・介護実践賞
伊保庄園　介護員　藤本幸志郎

山口県児童入所施設連絡協議会　会長表彰
山口県みほり学園　セラピスト　古谷　雅子

山口県社会福祉協議会　社会福祉事業関係功労者表彰
華南園　主任　今元　佑美
華南園　主任　東　武史
華南園　生活支援員　五歩池留美
華の浦　主任　西岡　有紀

山口県社会福祉協議会　会長表彰
灘海園　介護支援専門員　今地　雅宣
灘海園　生活相談員兼介護員（嘱託職員）　松冨奈津枝
灘海園　介護員（契約職員）　財間　篤美

山口県社会福祉協議会　山口県知事表彰
オアシスはぎ園　介護サービス課長　種子　早苗

山口県障害福祉サービス協議会　会長表彰
たちばな園　相談支援専門員　中本　実花
たちばな園　支援サービス課長兼サービス管理責任者　守田　信二
たちばな園　主事　山村　里香
たちばな園　看護師　松村美由紀

山口県身体障害者施設協議会　会長表彰
華南園　主任　今元　佑美
華南園　主任　和崎　伸二
華南園　生活支援員　小林　れい

山口県知的障害者福祉協会　事業功労者表彰
たちばな園　相談支援専門員　中本　実花
たちばな園　支援サービス課長兼サービス管理責任者　守田　信二
たちばな園　主事　山村　里香
たちばな園　看護師　松村美由紀

山口県老人福祉施設協議会　会長表彰
伊保庄園　介護サービス課長　叶山　尚美
灘海園　生活相談員　三宮　邦弘

岩国市　社会福祉功労者
灘海園　介護支援専門員　今地　雅宣
灘海園　生活相談員兼介護員（嘱託職員）　松冨奈津枝
灘海園　介護員（契約職員）　財間　篤美

防府市社会福祉協議会　社会福祉事業関係功労者表彰
華南園　支援サービス課長　西村　孝次
華南園　主任　時藤　政士

山口市社会福祉協議会　会長表彰
山口県みほり学園　児童指導員　池田　納子

宇部市社会福祉協議会　施設・事業所役職員功労
このみ園　主任　植木　詩乃
このみ園　児童発達支援管理責任者　東　由紀枝
このみ園　児童指導員　吉本　真

山口県社会福祉事業団　永年勤続表彰
事務局　事務局長　松原　聡
このみ園　主査　吉田　和敬

山口県社会福祉事業団　二十歳のお祝い
灘海園　介護員　井本　瑠唯
華南園　生活支援員　木村友希乃
華の浦　生活支援員　棚野　壮希

先進施設研修報告

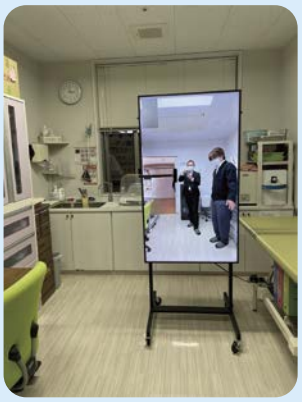
華南園　支援サービス課　主任　福島　有貴
理学療法士　大田　哲也

先進的なノーリフティングケアに取り組む大分県内の福祉施設を訪問し、二日間の研修に参加しました。本研修では、抱えない介護の実践方法に加え、福祉機器やＩＣＴを活用した業務改善の取組について、現場を通して学ぶことができました。

一日目に訪問した特別養護老人ホームＧｒｅｅｎガーデン南大分では、「抱えない介護」を前提とした明確な方針のもと、介護リフトや見守り支援システム、音声入力などが日常業務として活用されており、職員が落ち着いた雰囲気の中で利用者に寄り添う姿が印象的でした。

二日目に訪問した特別養護老人ホーム若葉苑では、従来の介護からノーリフティングケアへ段階的に転換してきた経緯や、職員同士が学び合いながら意識改革を進めてきた取組について話を伺いました。腰痛や事故の減少といった成果は、継続的な取組の積み重ねによるものだと感じました。

今回の研修を通じ、ノーリフティングケアとＩＣＴの活用は今後の福祉現場に不可欠な要素であり、職員が安心して働ける環境を整えていくことが、利用者の尊厳ある生活にもつながっていくことを改めて実感しました。今後は障害者支援施設である当施設の特性を踏まえながら、少しずつ業務改善や意識改革に活かしていきたいと考えています。



このみ園　支援サービス課　主査　吉田和敬

昨年九月一八日、先進施設研修のため岡山市にある福祉型障害児入所施設ももぞの学園を訪ねた。今回の研修では、福祉型障害児入所施設における移行支援ソーシャルワーカーの実践と考え方を学ぶことを主目的として臨んだ。

施設は岡山県の中央部に位置し、周囲はのどかな田園地帯であった。はじめに施設長と児発管より施設と法人の概要説明を受け、施設内を案内して頂いた。一人の当事者を護るところから出発した「人生」に沿った事業展開と法人の理念が職員に周知されているのはもちろんのこと、この理念に魅力を感じ入職してきた職員も多くいることに感銘を受けた。

その後はソーシャルワーカーと児発管より実務についての研修を受けた。講義や説明ではなく、それぞれの実践を話しながら質問しあう形で進めたが、移行支援の実状や課題、問題点、学校や家族、児相との連携、関係機関との会議の進め方、プラン作成の留意点や様式の工夫など実務的な内容だけでなく、成功事例や失敗談など、実践の説明と質問のやり取りは絶え間なく続き、予定していた時間をはるかに超過してしまった。もちろんそれぞれの施設を取り巻く環境や利用者像は違っており、同じ方法ではうまくいかないであろうと思える部分もあったが、移行支援に対する考え方や専従でそれを行う専門職としての在り方、ビジョンを学び、再認識し、共有することができた。

「入所してきた段階で(年齢に関係なく)退所する、移行することを常に考えて支援していきます。」と話された言葉のとおり、入所時から移行されるその日まで縦割りで動くのではなく、児発管や現場スタッフと連携をとりながら横断的にきめ細かく移行支援にあたっておられた。また、経験の有無長短に関わらず読めばすぐに業務にあたれる詳細なマニュアルは、現在作成中である当園でのマニュアル作成において非常に参考になった。

中国地区の福祉型障害児入所施設において、専従のソーシャルワーカーを配置しているのは当園含めて三か所しかなく、その必要性に対しての配置数はあまりにも少なすぎる。今回の研修で今年度初めから自身が手探りで行ってきた業務の、できている「根拠」とできていない「課題」が明確になったことは非常に大きな収穫であった。「この子らを世の光に」の言葉を具現化できるように、そして、そのために必要不可欠な職種であることを体現できるようにこの研修を活かしながら業務にあたりたい。

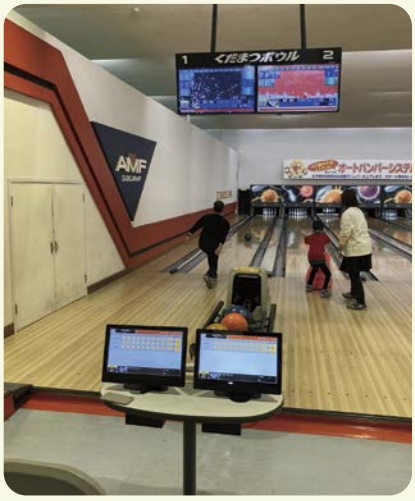
初開催！～職員互助会　親睦交流事業～

職員互助会では、初めて親睦交流事業を行いました。職員間の交流を主な目的として、令和七年度は、三つの事業を行いました。事業には互助会会員とそのご家族も参加され、どの事業も皆さんの笑顔溢れる楽しい時間を過ごすことができました。

まず、一つ目の事業は、十月に開催した「親睦ランチ会」です。山口市湯田温泉にある、かめ福オンプレイスのビュッフェレストランで、美味しいお料理をいただきました。瓦そば・ステーキ・お寿司・ハンバーグなど充実したメニューにスイーツも盛り沢山。皆さんしっかり食べて、飲んで、話して、また食べて…普段会う機会の少ない他施設の方とも、せっかくの機会とばかりに楽しそうにお話されている姿が印象的でした。

二つ目の事業は、十一月に開催した「レノファ山口観戦」です。山口市の維新みらいふスタジアムでレノファ山口の昨シーズン最後の試合を観戦しました。対戦相手は大宮アルディージャ。格上の相手でしたが、ホームゲームということもあり、選手は大健闘。三対二で見事レノファ山口は勝利しました。初めてサッカー観戦をされるという参加者の方が多かったのですが、スタジアムの熱気に影響され、自然と大きな声で応援していました。ゴールが決まるたびに、キャー!! ワー!! 最後まで大興奮。非日常空間で、皆さんしっかりリフレッシュされたようでした。

三つ目の事業は、十二月に開催した「ボウリング大会」です。会場は下松市のくだまつボウル。オープニングは金色のボウルで始球式を行い、華やかにゲームスタート。身体を動かすと、自然と会話も弾み、子供さんも、大人の皆さんも、それぞれのペースでボウリングを楽しみました。ボウリングの後は、昼食会と表彰式が行われ、表彰者には健闘をたたえ、賞状と賞品が授与されました。



最後に、ご参加いただいた皆さん、本当にありがとうございました。令和八年度も親睦交流事業を行う予定です。一人でも多くの笑顔が生まれるよう、楽しい企画を考えていきたいと思います。

初開催！～入団3年目職員の座談会～

入団3年目の職員を対象とした座談会を初めて開催しました。

業務に慣れ、力を発揮する一方で、周りの期待が大きくなることに不安を感じたり、成長の実感を感じにくくなったりしやすい時期…。

参加者より少し先輩の職員に仕事のやりがい等を話してもらう時間、レクリエーションを通して交流する時間、仕事や日常の思い等を自由に話す時間を中心にし、研修会ではなく、座談会という形で開催しました。

参加者の施設、職種、年齢等は様々でしたが、『大変なのは自分だけじゃないのが分かった』、『他の施設の職員と話せてよかった』等の感想が聞かれました。

今の自分自身を客観的に振り返ったり、仕事に対してより前向きになれるような有意義な時間となっていれば良いなと思います。

また、入団後はそれぞれの場で活躍していますが、『同期』という横のつながりを感じてもらえたら嬉しいです。

リレーエッセイ

実は私『○○』なんです

事務局　次長　齋藤　克敏

普段滅多に間食はしないので、周りの人からは意外に思われるかもしれませんが、実は私『甘党』なんです。その中でも、特にあんこが好きで、正月のお雑煮は、あんこ餅を入れて食べるほどなんです。そんなあんこ好きな私のマイベストあんこ和菓子は、『おはぎ』も捨てがたいところではありますが、やはり『苺大福』ですね。

私が、苺大福の存在を知り、始めて口にしたのは約四十年前の小学四年生のときで、家族で買い物に来た防府駅前のニチイ（現在はイオン）一階の柴崎大福堂（和菓子屋さん）の前を通ったときに、何気なく目に入った『苺大福（二個パック）』が妙に気になったんです。一旦は店の前を通り過ぎたのですが、どうしても苺大福とやらを食べてみたい衝動にかられた私は母親に懇願して一パック買ってもらいました。母親からは「家に帰るまでは我慢しなさい」と言われたが、我慢しきれず帰りの車中で苺大福を口にした瞬間、苺の甘酸っぱさにあんこの甘さが相まって、思わず『旨！』って車内で叫んだことを今でも覚えています。皆さんも初めて食べてみて「これ、旨！」って思った経験ありますよね。特にグルメな伊保庄園田岡園長なら私と同じような経験があると思いますので、田岡園長、次回のエッセイお願いしま～す。

最近の趣味

華南園　生活支援員　松本　大

私は、体力にはある程度の自信があります。そんな私のここ最近の趣味は散歩です。

ふと気づくと最近仕事以外で歩く機会が少ないなと感じました。健康のためにも空いた時間で散歩でもしてみようと始めたのがきっかけです。

日々の生活の中で無理なく続けられます。普段車で通る道でも敢えて歩いて通ると小さな発見があったりなかったりします。季節ごとに変わる風景や草木の香りなど普段は気にしないような小さな変化も楽しみになりました。

好きな音楽やラジオを聴いたり、通ったことのない道を探しながら歩いたり、人によって色々な楽しみ方があると思いますので、これを読まれた方は騙されたと思って実践してみてください。気分転換ついでに体もほんの少し軽くなった気がします。

次は散歩嫌いなオアシスはぎ園の金子景佑さんにお願いします。

国内だけど…

オアシスはぎ園　総務課　主事　新免武洋

昨年の十月にリフレッシュ休暇を取らせていただきました。コロナも落ち着いてきたこともあり遠出をしてみようと思い金沢を中心に旅行に行きました。

金沢市内では兼六園や武家屋敷、金沢周辺では合掌造りで有名な白川郷にも足を運びました。

観光自体はとても印象に残るものでしたが、より印象に残ったのはインバウンドの影響でした。

ニュースで知っていたものの普段の生活では実感はありませんでしたが、白川郷へ行くのに利用した日帰りバスツアーは定員三十四名に対して日本人が四名という比率でした。白川郷の中でも観光客のほとんどが外国人の方で、日本にいるのに日本語がほとんど聞こえない数時間でした。

次回は児童センターの山口主事、お願いいたします。

【発行】　社会福祉法人　山口県社会福祉事業団
〒753-8555　山口市大手町9-6　TEL　083-924-1025

ホームページ
はこちら⇒
HP　https://jigyodan-yg.jp/

LINE
友だち募集中⇒
施設の様子や法人情報を配信中！